

SPirit

スピリット

Shimane Physical Therapy

Vol.07 2026.02



Content

- 未来へ繋ぐ学びの祭典 - 第39回中国ブロック理学療法士学会へようこそ！
- 世界が舞台！WPC（世界理学療法学会議）発表体験記
- 熱気と学びを振り返る - 第22回島根県理学療法士学会開催報告
- 新たな職域への挑戦 - 産業保健相談員としての第一歩
- この人に聞く！SPiriTが注目するスペシャル会員

発行元：



一般社団法人

島根県理学療法士会

Shimane Physical Therapy Association

未来へ繋ぐ学びの祭典

- 第39回中国ブロック理学療法士学会へようこそ！



【開催概要】

会 期：2026年8月29～30日
場 所：島根県立産業交流会館 くにびきメッセ
(島根県松江市学園南1丁目2-1)
学 会 長：江草典政 (島根大学医学部附属病院)
副 学 会 長：藤丘政明 (島根県立中央病院)
石田修平 (島根大学医学部附属病院)
準備委員長：野口瑛一 (島根大学医学部附属病院)

江草 典政

(第39回中国ブロック理学療法士学会 学会長)

第39回学会「明日への約束」の開催によせて

第39回中国ブロック理学療法士学会の学会長を務めることとなりました、島根大学医学部附属病院の江草典政です。

中国ブロック学会は中国各県の士会が持ち回りで担当しており、5年ぶりに島根県にバトンが戻ってきました。今大会のテーマは、「明日への約束」とさせていただきます。

皆さんが普段診療している患者さんの明日、皆さんが住んでいる地域の明日、そして皆さん自身の明日が良いものになるようにどのように取り組めば良いのかを考え、そして行動を決意しながら一歩を踏み出せるような学術大会にすべく、このテーマとしています。

未来は明日の繰り返しの先にあります。

どう考えてもたどり着けそうにない未来でも、明日を少し変えれば必ず近づきます。

皆さんが今課題に感じていることはどんな事でしょうか？

また、皆さん自身が成長したいと思っていることはどんなことでしょうか？

普段学会に参加することがない方にとっても、学び・楽しんでいただけるように準備をしていきます。

島根県の皆さんのご参加を心からお待ちしています。



今大会の注目プログラム

野口準備委員長：本学会の注目プログラムについて副学会長の石田修平さんに聞いてみたいと思います。石田さん、今回の学会プログラムの注目してほしい点や見どころなどを教えてください。

石田副学会長：注目プログラムは、「全て」としか言いようがありません！専門特化していない本学会では、リハビリテーションとは？、今を捉えるための手法とは？、難所に対峙するには？、地域を、未来を、どう育んでいくか？など、参加した方のなにかに刺さるプログラムが多分に含まれています。一方で、学会で最も輝くプログラムは口述発表やポスター発表でもあります。それぞれの発表を十分に聞いてもらえるように、同じ時間にまとめず、それぞれの時間に分散させました。先輩や後輩、同期の輝く瞬間を見て、次の自身の発表につなげ、今後も中国ブロック全体が盛り上がることを祈っております。中国ブロックの全員に参加してほしいですね。

野口準備委員長：確かに今回の学会は例年と違い、かなりプログラム数が多いですし、また1つ1つの企画が濃い内容になっていますよね。学会ホームページから1つ1つの企画を見てほしいですね！（<https://39cbpt.gakujiyutsuweb.net/>）

いつもと違う!? 今大会からの新しい取り組み

野口準備委員長：本学会では講演や一般演題発表によるプログラム以外にも様々な工夫がなされています。本学会では変革担当の任を藤丘副学会長にお願いしております。本学会全体における新しい&面白い取り組みなどについて聞いてみたいと思います。

藤丘副学会長：第39回の中国ブロック学会が今後のベンチマークとなるような革新的な取り組みを現在進行形で準備しています。

まず組織体制について、形骸化しがちな副学会長に役割を与え、私が「変革」の視点から、石田さんが、「学術」の視点から、大局的な視点で学会全体をマネジメントしています。また各部局の名前を独自のものに変更しており、事務財務部門、体験価値デザイン部門、運営マネジメント部門、プログラム管理部門、それぞれの部門長が変革の取り組みを実践してくれています。

この取り組みがワクワクするものばかりで話したくて仕方がないところですが、まだまだ公開できないものも多いので、各部門長からの情報公開を楽しみにしておいてください！

野口準備委員長：藤丘さん、ありがとうございます。では次に具体的な取り組みについて体験価値デザイン部門の大森部長にも聞いてみたいと思います。

大森部長：体験価値デザイン部門は「レセプション係」と「おもてなし係」に分かれて準備を進めています。レセプションは学会会場で1日目のプログラム終了後すぐに乾杯をします！ポスターが掲示されているレセプション会場で、学会の熱気を保ちながら参加者や講師との交流をお楽しみください。おもてなし企画として、学会に参加される皆さんが快適に参加できる工夫や思い出に残したいフォト企画を用意しています。「明日への約束」を表明する



場があり、皆さんのアウトプットの場もご用意します。地元イラストレーターとコラボレーションした学会キャラクターの「えぐっち君」と一緒に、一人でも・仲間でも・家族連れでも楽しんで参加してくださいね！



学会キャラクター えぐっち君

- * レセプションの運営
- * 物販企画
- * 学会会場でのフォト企画
- * 参加者の「明日への約束」企画
- * 学会コンシェルジュ

野口準備委員長：どれも気になる取り組みですね！細かな部分については今後も SNS やメールマガジンなど発信していきます！皆さん、楽しみにしてくださいね！

学会を 120% 楽しむために

野口準備委員長：本学会はただ皆さんに集まっていたくような学会ではありません。皆さんに学会を思う存分に満喫していただけるよう、また安心して学びや交流を深めることができる工夫もしております。運営マネジメント部門の佐々木部長に、学会を120%楽しむための工夫点について聞いてみたいと思います。

佐々木部長：運営マネジメント部門では、皆様に会場で有意義な時間をお過ごしいただけるよう、工夫しながら準備を進めています。まず、演者と参加者の皆様が交流を深められるような空間づくりや、ご家族連れでも安心してご参加いただけるよう、充実したキッズスペースを準備しております。また、学会の合間にリフレッシュしていただけるよう、お食事や休憩スペースも検討しております。初日の夜には、移動の負担なくご参加いただけるよう会場内にて懇親会を開催いたします。ぜひ、現地ならではの熱気を感じてください。また、当日どうしてもご都合がつかない方や、別のセッションと重なり見逃してしまった方のために、後日オンデマンド配信もご用意しております。現地とオンデマンド配信の双方のメリットを活用し、存分に学会を楽しんでいただけますと幸いです。

- * オンデマンド配信・ポスター・会場の工夫
- * 会期中の交流
- * コーヒースペース
- * 学会会場内でのレセプション など
- * キッズスペース

野口準備委員長：参加者が思いっきり学会を楽しむことができる工夫が多くありますね！参加者の皆さんが自分にあった楽しみ方ができそうですね！

一般演題募集のご案内

野口準備委員長：プログラム開発部門の須山部長に、学会の重要な企画である一般演題発表について聞いてみたいと思います。今回の学会ではどんな一般演題発表に期待していますか？

須山部長：一般演題は、日々の臨床現場で直面した疑問や、悩みながらも実践した創意工夫、活動の積み重ねから生まれます。

発表までの準備は大変ですし、緊張もします・・・しかし、発表を終えたあとの大きな充実感と同じ領域の仲間と出会い、「横のつながり」も広がります。

みなさまの1 actionで“明日へ”つながる熱意あふれる演題を、楽しみにお待ちしております！

野口準備委員長：今度は島根県理学療法士会の研究支援部の佐藤部長にも聞いてみたいと思います。研究支援部では、本学会の演題発表支援として「抄録作成サポート事業」を展開していますよね。本事業はどんな方に利用してほしいとお考えですか？

佐藤研究支援部長：抄録作成サポートは初めて学会発表をする方や一人職場で周囲に相談する方がおられない方などはもちろんですが、今回は中国ブロック学会ですので、県学会から更なる一步を踏み出したい方もぜひご利用いただければと思います。アドバイザーは学術経験が豊富な先生が多くおられますので、ぜひ県内におけるつながりを広げて頂けると良いなと思います！

【一般演題発表についてはこちら】 演題募集期間：2026年2月2日～4月19日

募集演題数：80 演題程度(口述・ポスター) *複数演題の登録も可能です。

募集要項はこちら：<https://39cbpt.gakujiyutsuweb.net/endaiyoukou>

【抄録作成サポート事業についてはこちら】 <https://www.spta.jp/to-members/members-info1/944>

*島根県理学療法士会会員のみ利用が可能です

野口準備委員長：お二人ともありがとうございます！島根県士会の会員による一般演題発表から本学会を盛り上げていきましょう！

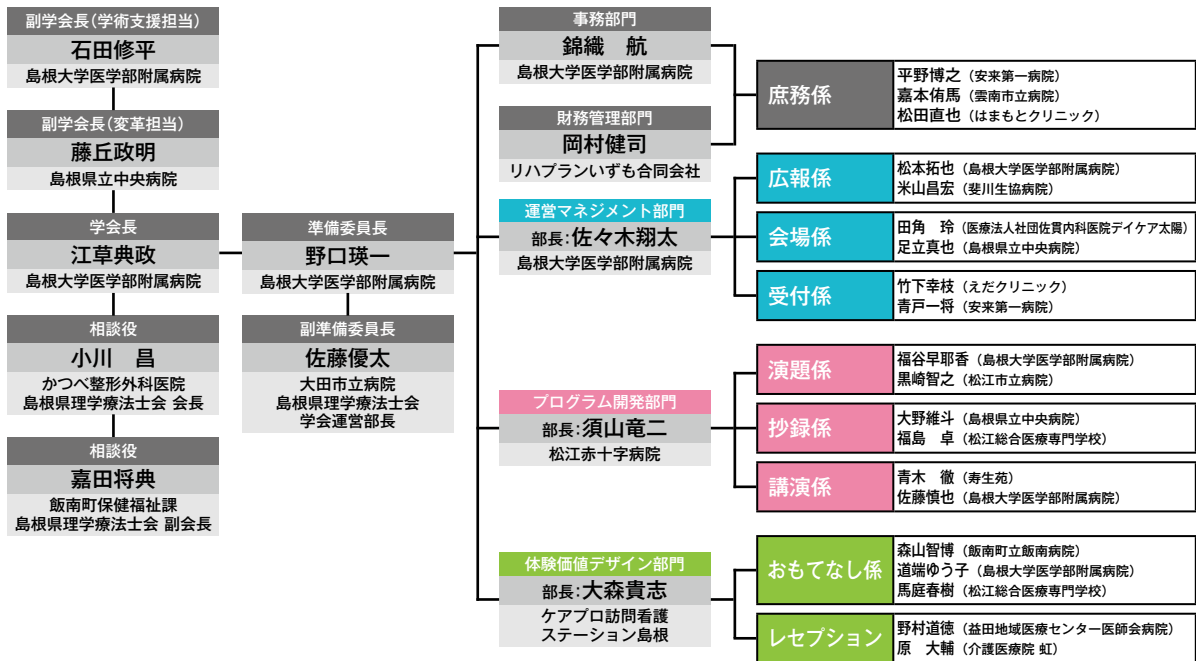
運営メンバー

野口準備委員長：これまで準備委員会の中でも代表となる方々にインタビューをしてきましたが、準備委員会のメンバーはこれだけではありません。ここからは事務局長をつとめる錦織さんにバトンタッチして、準備委員会についてご紹介いただきます。

錦織事務局長：第39回中国ブロック理学療法士学会の準備委員会は、島根県内の多種多様な施設から集まった、熱意あふれるメンバーで構成されています。私たちの準備委員会は、単なる「運営組織」ではなく、理学療法の未来を語り合う「ひとつの大きなチーム」と認識しています。「参加者の皆さんに、明日からの一步を踏み出してほしい」という強い願いを胸に、一丸となって準備を進めています。この組織図にあるメンバーだけでなく、当日スタッフとして加わってくださる皆様も含め、島根県理学療法士会の総力を挙げてこの大会を創り上げたいと考えています。私たちと一緒に、この大きな変革の波を楽しんでみませんか？



第39回中国ブロック理学療法士学会 組織図



<学会運営に興味のある方へ>

こうした学会運営、当日スタッフに興味がある方は、2次元コードからお声がけください。
優先的にご案内します。



さいごに

野口準備委員長：第39回中国ブロック理学療法士学会は2026年8月29・30日に開催されます。本学会は中国5県の理学療法士たちが集結する大きな学会です。島根県士会員の皆さんにとっても学びや出会いの多い学会となることと思います。先輩、後輩、同級生など多くの方々と共にご参加ください。皆様のご参加、心よりお待ちしております。

世界が舞台！WPC (世界理学療法学会議) 発表体験記

山科 俊輔

(島根大学医学部 環境保健医学講座)

WPC に演題登録した理由

大変お恥ずかしいのですが、正直に言えば、私が WPC への演題登録を決めた最初の理由は、「国際学会で発表したら絶対かっこいい」という、極めて短絡的なものでした。

今回発表した内容は、岡山県の中山間地域に住む高齢者を対象にした社会的孤立の実態とその関連要因に関する研究です。調査の結果、孤立の割合は 43%と都市部より高い傾向がみられました。準備を進めていく中で、私は次第にこんな疑問を抱くようになりました。「日本の健康課題は、世界の課題とどう違うのか?」、「海外の研究者は、日本の地域高齢者の研究に関心を持ってくれるのか?」こうした問いが少しずつ自分の中で膨らみ、「かっこいいから」という軽い動機で始まった挑戦は、やがてローカルな課題を世界の視点で捉えてみたいという、明確な目的へと変化していきました。

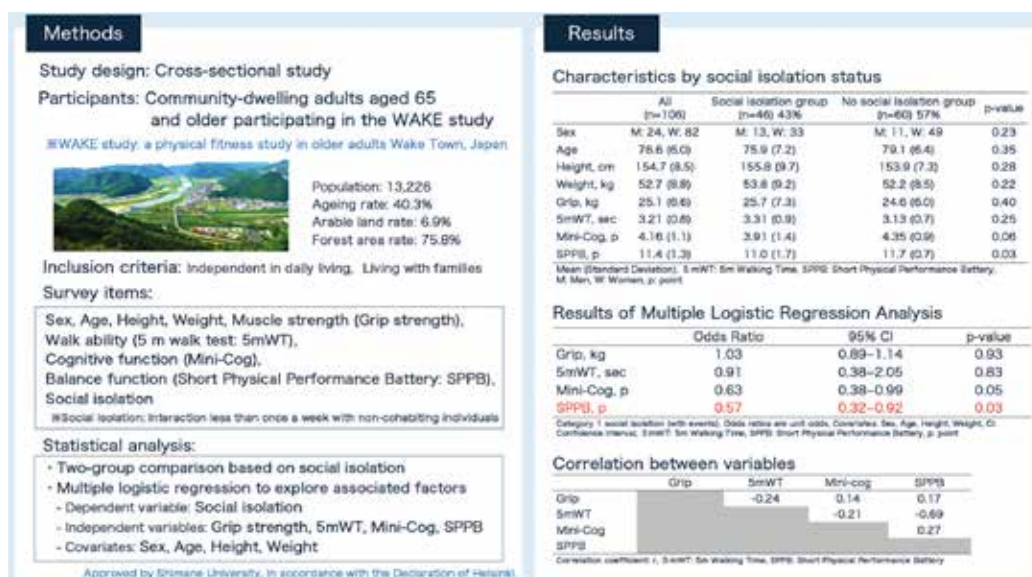
つまり、憧れから始まった挑戦が研究者としての視野の変化につながったというわけです。

奮闘と発見 (発表準備から当日の発表)

英語でのポスター作成では、背景、方法、結果、結論をシンプルにまとめる必要がありました。① social isolation の定義、② rural area の説明、③ロジスティック回帰の結果、④研究の意義、どれも英語にすると途端に難しく、「これでは伝わらない」「削りすぎると別の内容になる」と葛藤を繰り返しました。一部ポスターを抜粋した部分を共有します。

当日、外国の研究者がポスターに立ち寄ってくれたのですが、英語は本当に全然ダメでした。簡単なやり取りのつもりが、単語が出てこない。頭で文を組み立てているうちに、会話の流れが変わってしまう。「あ、もう多分これ伝わってないな……」と痛感する瞬間が何度もありました。この伝わらない緊張感は、国際学会ならではの特別な体験であったということも事実です。居心地の悪さ、悔しさ、それでも必死に伝えようとする自分、その全てが、とても貴重な時間だったと思います。

さらに驚いたのは、海外の研究者たちは非常に寛容で、ゆっくり話しても最後まで聞いてくれ、こちらの意図を汲み取ろうとしてくれたことです。言語が拙くても誠実に向き合う姿勢こそが研究者としての振る舞いとして大切なのだと、強く実感しました。



質疑応答での印象的なやり取り

質疑応答では、海外の研究者が特に研究の意義（Implications）を重視していることがよく分かりました。「この研究は臨床にどう役立つのか？」「我々は明日から何をすれば良いのか？」といった質問が投げかけられ、研究結果を社会や地域にどう還元するのかという視点の強さを実感しました。しかし私は、その問いに十分に答えられず、ひたすらポスターの Implications の部分を指しながら、「These findings will provide a basis for devising community-based interventions tailored to rural characteristics.」と言い続けるばかりでした。内心では、「その地域密着型の介入策って結局なんやねん……と突っ込まれていたよな」と思うほどで、うまく言語化できないもどかしさが残りました。

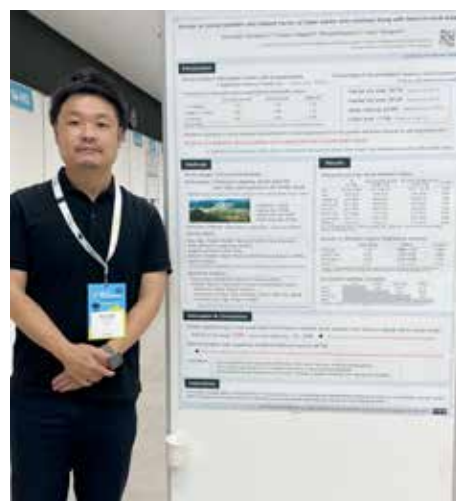
Implications

This study revealed basic characteristics of social isolation in rural settings and identified the balance function as a potentially relevant factor. These findings will provide a basis for devising community-based interventions tailored to rural characteristics

一方で、議論を続ける中で非常に興味深かったのは、Digital inclusion（デジタルを介した社会参加）という世界的潮流について触れられたことでした。特に COVID-19 以降、海外では高齢者支援にオンライン交流を取り入れる動きが急速に進んでいるようで、欧州の研究者から「オンラインでつながることも孤立予防の重要な手段だね」といった意見をいただきました。

さらに、「海外の高齢者は日本よりも IT リテラシーが高く、日常的にインターネットを使っている」という指摘も印象的でした。日本の中山間地域では高齢者はデジタルが苦手な当たり前の感覚がありますが、世界では高齢者でもオンラインコミュニティやスマートフォンを積極的に活用している文化が広がっています。この違いを知ることで、日本の地域課題を国際的な文脈の中で考える必要性を改めて感じました。

こうしたやり取りを通じて、研究の意義の示し方、文化や地域によって異なる IT 活用の実態、そしてそれが社会的孤立の構造に与える影響など、多くの学びを得ることができました。自分の研究を広い視野で捉え直すきっかけとなり、国際学会に参加した大きな意義の一つであったと感じています。



現地の雰囲気

会場では、外国人参加者のカジュアルなスタイルがとても印象的でした。サンダルや短パン姿の研究者も多く、「スーツを着ているのは日本人だけ？」と思うほどでした。形式ばらず、自然体で学会に参加している姿は新鮮で、その雰囲気が場の空気を柔らかくしているように感じました。このカジュアルさのおかげで、話しかけやすさは抜群でした。言語に不安があっても、こちらが少し勇気を出して声をかければ、皆が笑顔で応じてくれる。国際学会の場に漂うオープンさのようなものを強く感じ、とても心地よい雰囲気でした。

未来へのメッセージ（一步踏み出せば見えてくるものがある）

私の挑戦は、「国際学会で発表したらカッコいい」という軽い思いつきから始まりました。しかし、そこから得られた学びや経験は、自分の想像をはるかに超えるものでした。英語が思うように話せなくても、うまく伝えきれなくても、それでも自分の研究を世界に向けて発信しようとした時間は、これまでの臨床や研究の考え方を少しずつ変えるきっかけになったように感じています。

今回の経験は、「一步踏み出すことでしか見えない景色がある」ことを改めて教えてくれました。その感覚が、次のステップへ向かうための小さな原動力になっています。

WPC 参加を通じて得られた最大の学びや、自身の臨床・研究への影響

WPC に参加して強く感じたのは、自分にはまだまだレベルアップが必要だという現実でした。英語での議論力、研究背景の語り方、結果の解釈の深さなど、世界中から集まる研究者たちとの対話を通じて、自分の弱点が次々に浮き彫りになったからです。

一方で、意外だったのは、日本の研究と世界の研究の間に想像していたほどの差はないという事実でした。扱っているテーマも、研究のフレームも、理学療法として実践している内容も、思っていた以上に共通点が多いと感じました。徒手療法、運動療法、動作分析、地域に根ざした取り組みなど、私たちが日々取り組んでいる臨床と大きく変わらない発表が数多く並んでいました。

この課題感と経験が、今の私にとって大きな糧となり、今後の臨床と研究の方向性を見直す貴重な機会になったと感じています。

これから国際学会を目指す後輩への具体的なアドバイスとメッセージ

これまでの経験から私が強く感じているのは、「挑戦は小さな見栄から始まっていい」ということです。WPC への挑戦も、最初は「国際学会で発表したらカッコいい」という軽い動機でした。しかし、その「カッコつけ」の一步が、研究者としての視野を広げ、新しい世界とつながる大きなきっかけになりました。後輩のみなさんに伝えたいのは、特別な準備が整うのを待つ必要はないということです。英語が苦手でも、経験が浅くても、完璧じゃなくてもいい。まずは国内の英語セッションでも、日本開催の国際学会でも、どんな形でもいいから一步を踏み出してほしい。行動した瞬間から、景色は必ず変わります。

私が WPC を通じて学んだ最大のメッセージは、「カッコつけてでも動く人が、結局いちばんカッコいい」ということです。やりたいと思う人はたくさんいます。しかし、本当にやる人は、ほんのわずかです。そのわずかの側に入るかどうかは、自分の小さな勇気と、ほんの少しの見栄にかかっています。どうか躊躇しないでください。カッコつけていいし、背伸びしていい。そうやって動いた人が、最後は本当にかっこよくなるのだと、私は心から思っています。

熱気と学びを振り返る

- 第22回島根県理学療法士学会開催報告

馬庭 春樹

(第22回島根県理学療法士会 学会長)



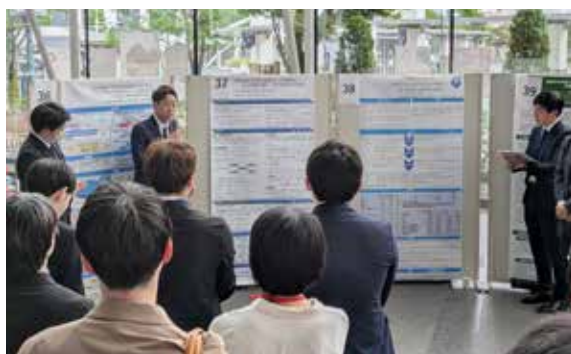
第22回島根県理学療法士学会で学会長を務めさせていただきました、馬庭春樹です。学会開催にあたり、たくさんのご支援・ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。おかげさまで、本学会は盛会のうちに終了しました。本稿では、当日の様子をご報告いたします。

本学会は、2025年6月14日(土)・15日(日)に松江テルサにて開催され、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で実施しました。2日間で合計633名の方にご参加いただきました。学会テーマは「1 Action ~想いを形づくる~」とし、皆さんの想いを行動(1 Action)として形にする場になってほしいという願いを込めました。

学会は開会式・学会長講演からスタートしました。開会式では、議員の先生方からもご挨拶を頂戴しました。

学会は開会式・学会長講演からスタートしました。開会式では、議員の先生方からもご挨拶を頂戴しました。

一般演題は口述発表とポスター発表を合わせて43演題の発表がありました。県内ほぼ全域の施設から演題登録があり、新人からベテランまで幅広い年代の先生方が登壇されました。理学療法の専門分野に加え、教育や職場管理に関する発表もあり、質疑応答も活発に行われました。県学会として、地域課題について考え、共有する貴重な場となりました。



本学会の基調講演は新谷歩先生（大阪公立大学）、教育講演1は北川孝先生（信州大学）、教育講演2は加藤研太郎先生（大阪医療大学）にご登壇いただきました。統計解析、スコーピングレビュー、学習科学といった学術・教育の基盤となるテーマについてご講演いただき、参加者にとって学びの多い時間となりました。



新谷歩先生（大阪公立大学）



北川孝先生（信州大学）



加藤研太郎先生（大阪医療大学）

市民公開講座では、「インクルーシブなまちをめざす縁 JOY の会」代表の三島修治先生に、団体の理念や活動についてご講演いただきました。市民の方の参加も多く、会場は終始温かな雰囲気にも包まれていました。会場入口では、医療的ケア児に関するポスター展示も行い、県内養成校の学生の皆さんにもご協力いただきました。



三島修治先生（インクルーシブなまちをめざす縁 JOY の会）

シンポジウムは「臨床実習」をテーマに開催しました。養成校教員、実習生、実習指導者それぞれの立場から意見が述べられ、島根県におけるより良い臨床実習に向けた前向きな議論が行われました。



福島卓先生
（松江総合医療
専門学校）



山本圭彦先生
（リハビリテーション
カレッジ島根）



月森陸先生
（益田地域医療センター
医師会病院）



堀内秀太郎先生
（松江生協病院）



※右より堀内秀太郎先生、月森陸先生、山本圭彦先生、福島卓先生

会場内には書籍販売コーナーを設け、講演後に書籍を手にする参加者の姿が多く見られました。書籍のプレゼント企画も実施されました。また、小児がん支援を目的としたレモネードスタンドも設置し、売上金 31,000 円を関係団体へ寄付しました。さらに、あそびブースも設け、家族連れの参加者にも好評でした。



学会 1 日目終了後には懇親会を開催し、講師の先生方を含め、多くの方が参加されました。終始和やかな雰囲気の中で交流が行われ、学会ならではのつながりが生まれる場となりました。



閉会式では、最優秀賞、学会長賞、Green Academy 賞の表彰が行われました。受賞された先生方、誠におめでとうございます。

【最優秀賞】

江草 典政 先生（島根大学医学部附属病院）

演題名：シナリオ型チャットボットを利用した業務 DX の取り組み

【学会長賞】

福島 卓 先生（松江総合医療専門学校）

演題名：理学療法士学生の性格タイプ別特性と自己評価の傾向：学生支援方法の検討

【Green Academy 賞】

田代 愛奈 先生（島根大学医学部附属病院）

演題名：頸椎椎弓形成術後に残存したしびれ感に対してしびれ同調経皮的電気刺激が有効であった一症例



次期学会長挨拶では、第 39 回中国ブロック理学療法士学会（2026 年度）学会長の江草典政先生、第 23 回島根県理学療法士学会（2027 年度）学会長の藤丘政明先生よりご挨拶があり、バトンが引き継がれました。

本学会は特に学術・教育分野に重点を置き、講演内容もこれまでにあまり扱われていなかった内容でしたが、参加者の方々の「1 Action」が積み重なり、温かく前向きな学会となりました。本学会が、今後の島根県における学術・教育分野の発展につながれば幸いです。

島根県理学療法士学会は、学会運営部をはじめ、多くの会員の協力によって支えられており、皆さんの新たな一歩を応援する仕組み、そして温かい雰囲気があります。これまで県学会に参加されたことのない方も、ぜひ次回は参加されてみてはいかがでしょうか。最後に、学会運営部長として中心的な役割を担ってくださった佐藤優太さんをはじめ、学会運営部員の皆さんに心より感謝を申し上げます。

新たな職域への挑戦 - 産業保健相談員としての第一歩

岡村 健司

(リハプランいずも合同会社 代表社員 居宅介護支援事業所 ほっとみるくいずも)

はじめに

理学療法士の新たなキャリアパスとして「産業保健」分野をご存知でしょうか。病院やクリニックでの臨床とは異なる、でも確実に理学療法士の専門性が求められるフィールドです。本稿では、私自身が産業保健相談員として活動する中で感じた、この分野の可能性と魅力をお伝えします。



なぜ今、理学療法士が産業保健に？

私が挑戦しようと思ったきっかけ

2021年より日本理学療法士協会も産業理学療法（高齢労働者就労支援）についての取り組みを進めており、いくつかの県士会が試験的に取り組みを始めていることは知っていました。

また自身の会社でも事業の上で活かせるかと考え、独立後に両立支援コーディネーターや健康経営アドバイザーを取得し、その際に産業保健についても学んでいたところでした。

島根県でも島根産業保健総合支援センター（以下、さんぼセンター）と島根県理学療法士会の共同で「転倒防止・腰痛予防のための事業場への無料運動指導」を小川会長中心に始められており、何か協力できればと思ったことがスタートです。

産業保健とは？

産業保健とは、働く人々の健康を守り、安全で快適な職場環境を作るための取り組みです。理学療法士の強みである「動作分析」「運動学的視点」「予防的アプローチ」が、この分野で大きく活かされます。



企業と働く人を支える、私の仕事

臨床現場との違い

本年度から産業保健相談員の委嘱を受け活動していますが、実際の事業場で解剖学や運動学の観点から、なぜ高齢になると転倒が増えるのか、なぜ不良姿勢の積み重ねで腰痛が生じるのか、それに対するの留意点などをお話しさせていただく機会が多くあります。

終了後のアンケートからご意見をいただくと、「このような視点や自らの体験を踏まえての講義で留意点がよく分かりました」との感想をいただくことも多く、動作に対する知見や実際の理学療法の場面で皆様日々行われている観察や分析が、有益かつ産業保健の活動の中で十分活かせると感じています。

臨床現場と産業保健の違い

- **臨床現場**：目の前にいる患者さんや利用者さんに対して最善の利益をもたらすことが最重要
- **産業保健**：直接その方を治療したり対応したりすることはなく、職場環境の改善や職場内の労災防止への考え方や取り組みを促すことで、職場全体としての安全性を向上し、ひいては労働災害の防止、プレゼンティーズム（体調不良による生産性の低下）などを防ぐことを目的とする

通常の理学療法の立ち位置から一歩引いた、職場全体を俯瞰的に見る長期的な視点が必要です。

職場での転倒にご注意ください！

転倒予防のために適切な「靴」を選びましょう

サイズ

靴と足はフィットしていますか？

足に合った靴は疲労の軽減、事故の防止につながります。

屈曲性

縦指から小指の付け根を過度に曲げられますか？

靴の屈曲性が悪いと、疲労の蓄積、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。

重量バランス

靴の前後の重さのバランスはとれていますか？

靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく、つまずきやすくなります。

つま先部の高さ

つま先から床面まで一定の高さがありますか？

つま先の高さが低いと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。

靴底の減り具合

靴底がすり減っていませんか？

靴底の減りが大きい靴は、滑りやすくなります。

耐滑性の有無

靴の滑りにくさを確認していますか？

耐滑性を有する靴は、以下の箇所を確認できます。

- 安全靴の場合
 - 個包装のJISマーク表示の近くに「F1」または「F2」の表示があるか確認してください。
- プロスニーカーの場合
 - 靴のペラ裏面の表示に、耐滑性のピクト表示があるか確認してください。

その他の性能

- かかと部の衝撃 エネルギー吸収性
- 静電気帯電防止性
- 耐湿性

STOP! 転倒災害プロジェクト

厚生労働省と労働災害防止団体は、労働災害のうち最も件数が多い「転倒災害」を減少させるため、「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進しています。

STOP! 転倒

先芯がいらぬ作業環境で使用する耐滑靴の探し方

作業時に着用する靴の安全性は、作業環境の状況に応じて決められています。先芯（安全性を確保するために靴のつま先部分に入れる）を履く必要がない作業環境の場合でも、耐滑靴を着用しなければならないことがあります。その場合、先芯入りの安全靴やプロスニーカーであれば、靴の表示で耐滑性を確認できますが、先芯入りでない靴は表示で耐滑性を確認することができません。その場合は下記のメーカーへご相談ください。

職場の状況に適合する靴を紹介できるよう、以下の項目を参考に職場の作業環境等もご説明ください。

■作業中に重量物を取り扱うことがあるか

重量物を取り扱う場合、安全靴を着用してください

■作業中や作業後に水を取り扱うことがあるか

水を取り扱う場合、靴の表面素材は人工皮革製・ゴム製が最適です

■床の材質

塗り床/タイル/カーペット等

床の材質で適合する靴底が変わります

■滑りが発生する場合の状況

滑りが起きた状況によって対策が変わります

(例)

- 物につまづいた → 運動と通路改善
- 濡れた床で滑った → 水・油用耐滑靴検討
- 凍結路面で滑った → 氷用耐滑靴検討

詳しくはメーカーや販売店にご相談ください

耐滑靴取り扱い店・メーカー

会社名	電話番号	関連商品URL
弘進ゴム株式会社	022-214-3021	https://www.kohshin-grp.co.jp/FormMail/shoes/
株式会社シモン	0120-345-092	https://www.simon.co.jp/contact/
日進ゴム株式会社	086-243-2456	http://www.nishinrubber.co.jp/contact/index.html
株式会社ノサックス	082-425-3241	www.nosacks.co.jp
株式会社丸五	086-428-0232	https://www.marugo.ne.jp
ミズノ株式会社	0120-320-799	https://sports-service.mizuno.jp/stob_service
ミドリ安全株式会社	03-3442-8293	https://midori-fw.jp/

15

現場で感じたこと

多くの色々な事業場を訪問させていただき、現状をヒアリングさせていただきました。

この夏一番暑い時期に配送業の事業場を職場巡視させていただいた時には、水の入った大量の段ボールの山の前で、配送用のパレットに汗を流しながら、黙々と積み替えておられる方がおられました。こういった方々の努力は、家に届いてただ荷物を受け取るだけでは見えないんだと改めて感じさせられた場面でした。

しかしながら、講義の中で個々の職場環境の改善、運動指導・体操などについて講義をさせていただいた際には、中間管理職の方から講義終了後「どうすればいいって言うんだよ」との声が発せられました。実際の現場で働いておられる方、経営者、上司、その間で葛藤する方の生の声であると感じられました。

この仕事の難しさと工夫

さんぼセンターの訪問指導では1つの事業場に対して年度内に3回までの訪問という制約が付けられています。継続して関わることができるわけではない中で何ができるのか、イベントとして終わってしまうものにならないようにどう意識付けできるのか考えていかなければいけないと思っています。

ある意味、組織外から一種公的な立場としてお伺いさせていただくことを活かし、職場全体での取り組み、管理職や経営層の意識が変わり、継続して職場全体として取り組んでいただけるきっかけ作りとしてお伝えすることが重要と感じ、日々留意しています。



産業保健分野の可能性と、目指す人へのエール

この分野の今後の展望

2026年度以降は職場での転倒予防について努力義務化されるという意見も聞かれています。

労働人口・生産年齢人口がどんどん減少していく現代、特に少子高齢化の最前線である島根県では、多くの高年齢労働者の方が様々な事業を支えてくださっています。

役割や生きがいがあること、それ自体が健康寿命を延伸するとの報告もあり、働きたいと思っている人が痛みや急な事故のため職場を離れざるを得ないということを防ぐことの重要性はますます増していくと考えられます。

島根県士会のミッションスローガンである「あなたの大切を彩る」10年ビジョンの中の「地域と生きる」とも合致し、島根の労働環境を守るためにも重要な意味を持つと考えられます。

興味を持たれた方へ、今からできること

臨床現場で日々努力しておられる皆様におかれましては、臨床での対応力を日々つけていただくことはもちろんですが、様々なイベント等で色々な職種の方が働いておられることに興味を持っていただければと思います。

まずは身近なところから：

- スーパーで働いておられる方の姿勢をしてみる
- タクシーに乗った時、運転手さんにお話を伺う
- 日常で出会う人の「働く姿」に興味を持つ

学びの機会を活用する：

最初にも述べましたように、協会でも産業理学療法についての取り組みを進めており、オンライン等でもウェビナーであったり、産業保健を学ぶコミュニティなど触れる機会が増えてきていると感じられます。

こういったものにもご興味があれば参加し知見を深めていただいたり、イベントを開催する側、研修会や学会のサポートなど主催する側になってみるというのも一つかもしれません。

大切にしたい視点：

- 一つの物事を俯瞰的にかつ多面的に見る見方を身につけておく
- 日々出会う人に興味を持つ

まずはそこからスタートされるのが良いのかなと思います。



おわりに

是非、島根県理学療法士会の産業理学療法の委員会活動や、毎年開催されているさんぼセンターとの共同の両立支援に関する研修会にも顔を出していただくなど、この分野に興味を持っていただければ嬉しく思います。

臨床現場での経験は、必ずこの分野でも生きてきます。少しでも興味を持たれた方は、ぜひ一緒にこの可能性を広げていきましょう。

ありがとうございました。

産業保健で役立つ資格

- 両立支援コーディネーター
- 健康経営アドバイザー
- 第一種衛生管理者 等

この人に聞く! SPiriT が注目するスペシャル会員

長年県士会を支え続けてきた

内田 賢 先生

松江総合医療専門学校
理学療法学科



01 現在のキャリアのきっかけやここまでの活動を教えてください



私は1982年、ちょうど島根国体の年（島根でも国体をしたんですよ）に理学療法士になり、島根県立中央病院に入職しました。当時の国家試験の合格発表は5月にありましたので6月になり正式に職員になってから理学療法士会に入会しました。その頃は、県士会員数が40名程度であり島根に就職する人も多くて年に数名程度といった状況でした。従ってどの施設にどういう方がおられるか大体把握することが可能でした。

職場の上司が士会の役員（のちに会長就任）をしていたこともあり、士会活動には早期から関心を持っていました。特に1988年の全国研修会の際には、理事でも部員でもないのに事務局次長という役をあてがわれ当時の事務局長（職場の先輩）と様々な対応に追われました。上司と先輩が士会役員を退いた後、士会理事として士会活動に携わることになりました。

主に厚生活動担当理事として会員の方々の親睦を深められるよう努めてきました。士会の予算も限られたものでしたので大きな活動はできず気軽な気持ちでやっていました。

転職が訪れたのは2006年に現職場に転職した頃だったと思います。急遽事務局長を仰せつかることになり職務内容が一変しました。会員管理、士会の窓口として協会や他団体との調整、各部への情報伝達や取りまとめなど多岐にわたりました。また、協会との会員管理についてネットを利用したシステムに変更するため協会本部に出かけたり専用のパソコンを用意したりと忙しさは数倍になったように思います。

平成25年に前会長が突然辞められることになり、それまでの流れを継続していくため士会のことをいろいろ把握していた自分が会長になるのがいいのではないかと思います。このころ地域包括ケアシステムが立ち上がり、地域包括ケア推進リーダーや介護予防推進リーダーの育成にも関わっていきました。また、島根リハビリテーション専門職協議会の設立にも関与しました。その他いろいろあったと思いますが忘れてしまいました。

士会理事18年、会長職は2期4年で退任し、監事を経て一般会員として現在に至っています。

02 仕事をする上で大事にしていることを教えてください。 また、やりがいに感じることを教えてください。

大事にしていることは、応用や即興が効かない私としては“事前準備”を大事にしています。臨床にいる時は、（皆さんもしていると思いますが）患者さんの治療としてどのような手技がいいのか、効果があるのかしっかり検討すること。一人一人疾患や症状、背景が異なりますので常にベストを求めています。教員になってからは如何に理解してもらえるか新しい情報も加えて伝えるようにしました。如何せん基礎知識については忘却している部分が多分にあったためわかりやすかったかは自信がありません。（苦笑い）

やりがいに感じることは“達成感”です。患者さんの治療、教員としての講義、士会役員としての活動、いずれにしても行う前は不安が大きいです。事務局長時代に現職者



講習会（今で言う理学療法士講習会）を何回か企画しました。以前の全国研修会もそうですが、人が来てくれるか、滞りなくできるのか、人前でしっかりしゃべれるのかと心配になりますが終わった時の達成感はいつも気持ちがいいものです。一人での祝杯（最近は意味もなく祝杯してますが）をやりがいにして来たように思います。

03

長年、島根県理学療法士会の役員を務める中で大変だったことや、やっ ていて良かったことと思うこと、変化があったと思うことは何ですか



大変だったことは、全体をまとめることと人前で話すことです。長がつく役職になると挨拶とか締めの一語など発言が求められ、その都度気の利いたことをユーモアを交えて話さなければという思いが強く苦勞したように思います。また、士会をまとめていく事に関しては、全部を一人ではできないのである部分は人に任せることになりますが、それを任せてもいいのか、どこまで任せていいのか考えさせられました。ただ理事の皆さんがしっかり支えてくださったので私の考えは杞憂に終わり、士会活動を無難（自己満足かもしれませんが）に遂行でき、次の会長に櫛を渡すことができたと思っています。

良かったことはたくさんあります。まず、いろいろな方と知り合うことができました。本や雑誌等で著明な方々や他県士会の役員の方、他職種の方、行政の方などつながりが持てたことがあがります。次に、貴重な経験をさせて頂くことができました。士会長そのものも貴重な体験ですが、他にも中国ブロック理学療法士会の代表、協会の委員会の委員としてやりたくても簡単にはかなわないことを経験させて頂きました。このころは、各士会長は協会の委員会に部員として参加するように割り当てられ、自分は総務関連業務執行委員会の一員となりました。ここでは主に予算の協議となり、県士会の予算とはけた違いの予算に目が点になったことを覚えています。

そして一番良かったことは、昨年頂いた厚生労働大臣表彰があります。これこそだれでも頂けるものではなく、自分でも非常に名誉なことと感じています。家のことをそっこのけで士会活動を行ってきたご褒美としてありがたく頂きましたがこれも自分一人の力だけでなく士会理事や皆様方の大きな支えがあつてのことと厚く感謝申し上げます。

挙げればきりがありませんが島根県士会の底上げ、認知度アップ、社会貢献などやってきて良かったと思っています。

04

若い会員へのメッセージをお願いします

すでに高齢者となった自分に若い方へのメッセージといわれても、皆様より少し長く生きてきただけの者でおこがましく、昭和の人間のいうことは聞かなくてもいいのではないのでしょうか。時代によって価値観や考え方は違ってきますので私が偉そうにいうことでもないと思います。（老害になるかも）ただ、若いうちにいろんな方と知り合い、いろいろな考えに触れ、いろいろ考えることが将来、役に立つのではないのでしょうか。理学療法士は人に関わる職業です。人とのつながりを大切にして頂き、士会活動はその一部だと思いますのでどんどん活用したらいいと思います。



[編集後記]

今回の広報誌「SPiriT」では、理学療法士の「学びの多様性と新たな可能性」をテーマに構成いたしました。中国ブロック学会から、世界を舞台にしたWPCでの挑戦、さらには産業保健という新たなフィールドへの一歩まで、私たちの専門性が社会の多層的な場面で求められていることを改めて実感できる内容となっています。

理学療法士を取り巻く環境は日々変化し、専門職として価値提供をする対象も多様化しています。本特集が、会員の皆様にとって日々の臨床や研究を振り返り、次なる一歩を踏み出すためのポジティブな刺激となれば幸いです。

なお、今回の各記事は、島根県内で第一線を走る先生方に多大なるご協力をいただき、執筆が実現いたしました。この場を借りて、企画・執筆・編集に携わってくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

SPiriT編集 平野瑛士

[ご協力のお願い]

- ・県士会の“つながり”を作っていくためにも、原稿依頼をさせていただくこともございます。ご協力をお願いいたします。
- ・このような内容でまとめて欲しいなどご要望がございましたら、お問い合わせ先までご連絡ください。



島根県理学療法士会
ホームページ



島根県理学療法士会
Facebook



島根県理学療法士会
Instagram



島根県理学療法士会
x (旧 Twitter)

お問い合わせ先

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89 - 1
島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部
島根県理学療法士会 広報部 松本拓也
メール：spta.information@gmail.com